

忙しい人のための:本研究の問いと知見

問い:なんで被災地に必要とされていないモノ(古着, 千羽鶴など)を支援物資として送るの?

知見:支援者が独りよがりにより被災地・者のニーズを押し測ってしまっているから

Background

- 2024年1月1日に能登半島で、震度7の地震が発生、広範囲で津波が観測されただけでなく、家屋の倒壊等が生じた
- 避難所等には公的機関等から支援物資が到着したが、一般市民からの支援物資については、制限が設けられた(石川県, 2024)
- 2011年に発生した東日本大震災時の教訓が活かされていると考えられる
e.g., ぼろぼろになった古着や賞味期限切れの食品, 千羽鶴・寄せ書きなど被災者のニーズとマッチしない物資
- 実際, 能登半島地震の際も現地への持ち込みという形で, 賞味期限切れの食品が持ち込まれる事例が発生している(NHK, 2024)

Objectives

- 本研究はこの支援物資のニーズのミスマッチに着目
 - なぜ客観的には価値が低いと判断されるようなものを, 支援物資として提供してしまうのか, 明らかにすることを目的とする
- 仮説a: 物資の価値評価について, 他者の視点からの評価は鑑みず, たとえどのような物品であろうと, 自己の評価が高いと提供する
仮説b: 「もったいない」という情動特性(黒川, 2013)も関連すると想定し, この特性が高いと, 価値が低いものでであろうと提供を行う

Methods

- 2024年2月に, クラウドソーシングサービスに登録する一般成人599名(男性352名, 女性244名, その他3名)を対象に実施
 - 平均年齢は43.39歳($SD = 9.80$)で, 参加者のうち36名が実際に被災された方であった
 - 本調査では今回の地震で被災した参加者等に配慮し, 回答を差し控えたい質問については, 無回答のまま提出可能とした
- 項目群1: デモグラフィック(性別, 年齢, 居住地域, 最終学歴, 婚姻状況, 子供の有無, 世帯年収), 震災規模の規模の大きさ認知, ボランティア支援の必要性, 支援物資の必要性, 支援を行いたい程度, 支援行動の程度, 実際に行った被災地支援活動
- 操作: 支援物資として提供可能な物品(飲料水, 食料, 医薬品, 日用品, 衣類, 義援金, 応援の品:参加者内要因)について, その価値を4段階で操作(賞味期限, 使用期限等, 応援の品については価値操作せず:参加者間要因)
- 項目群2: 物品を支援物資として提供するか(二値変数), 物資提供時の感情(ポジティブ・ネガティブ), 自身による価値評価, 他者の視点に立った場合の価値評価, もったいない情動特性尺度(黒川, 2013)

Results

変数名	水	食品	医薬品	日用品	衣料品	応援品	義援金
性別	1.375	.623	.683	1.077	.591*	1.614	.688+
年齢	.978	.965+	1.006	1.002	.991	1.021	1.010
学歴	1.123	.951	1.812*	.803	1.097	.573+	.734+
婚姻状況	1.259	1.044	1.212	.723	.621	.586	.707
子供の有無	.931	3.014**	.830	1.121	1.991+	3.020+	.896
世帯年収	1.005	.963	1.073	.915	.951	1.372*	1.154+
地震の規模認知	1.425	.927	1.378	1.107	1.199	.865	1.063
ボランティアの必要性	1.156	1.000	.966	1.064	1.170	1.012	1.190
支援物資の必要性	.614	1.018	1.502	1.196	.812	1.455	1.033
支援を行いたい程度	1.867**	1.528*	1.232	1.485*	1.276+	1.283	1.510**
支援行動の程度	.954	1.004	1.306	1.148	1.288	.619	1.782**
もったいない得点	1.324	.400*	1.072	.914	.549+	.702	.908
価値操作	2.128**	2.424**	1.518**	1.216	1.143	—	.495**
ポジティブ感情	2.395**	1.968**	3.531**	1.746**	2.288**	3.862**	1.548**
ネガティブ感情	.645**	.664**	.531**	.649**	.705**	.866	.776**
自己視点価値	1.207+	.993	.869	1.121	.988	1.168	.883*
他者視点価値	1.292*	1.386**	1.332**	1.319**	1.298**	1.784**	1.025
R^2	.836**	.802**	.799**	.680**	.625**	.782**	.397**

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

Discussion & Conclusion

- 今回の結果は, 自身の価値評価の高さが影響するという予測に反し, 他者視点の価値評価が提供を決めることが明らかとなった
- また, もったいないという感情特性についても, 有意な関連は見られず, 「捨てるにはもったいない」から, 支援物資として被災地に送るといった可能性は低いことが示唆された
- 支援物資送付時の感情の影響も確認され, ポジティブ感情が強いほど特定の物品を物資として送る一方, 後ろめたさといったネガティブ感情が強いと, 支援物資としては送らないことが示唆された
- 他者視点の価値の影響は, 東日本大震災の際に批判された, 千羽鶴といった応援の品についても見られていた
- 支援物資に関する現地とのニーズのミスマッチについては, 支援を行う側が, 独りよがりにより被災地や被災者のニーズを押しはかり, 一方的に物資の送付を行うため生じていると考えられる
- 一方で, 義援金については異なる傾向が見られ, 設定された価値が高いほど(e.g., 10万円)支援としては送りたがらず, また自己視点の価値評価が高いほど支援には送りたがらないことが示され, 閾値が存在する可能性が示唆された